

平成23年7月8日

ニッケ グループ

平成23年11月期 第2四半期
(平成22年12月～平成23年5月)

決算説明資料



ニッケ（日本毛織株式会社）

本資料中の業績予想、見通しおよび事業計画についての記述は、本決算発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、記載された将来の業績を保証するものではありません。

連結業績概要

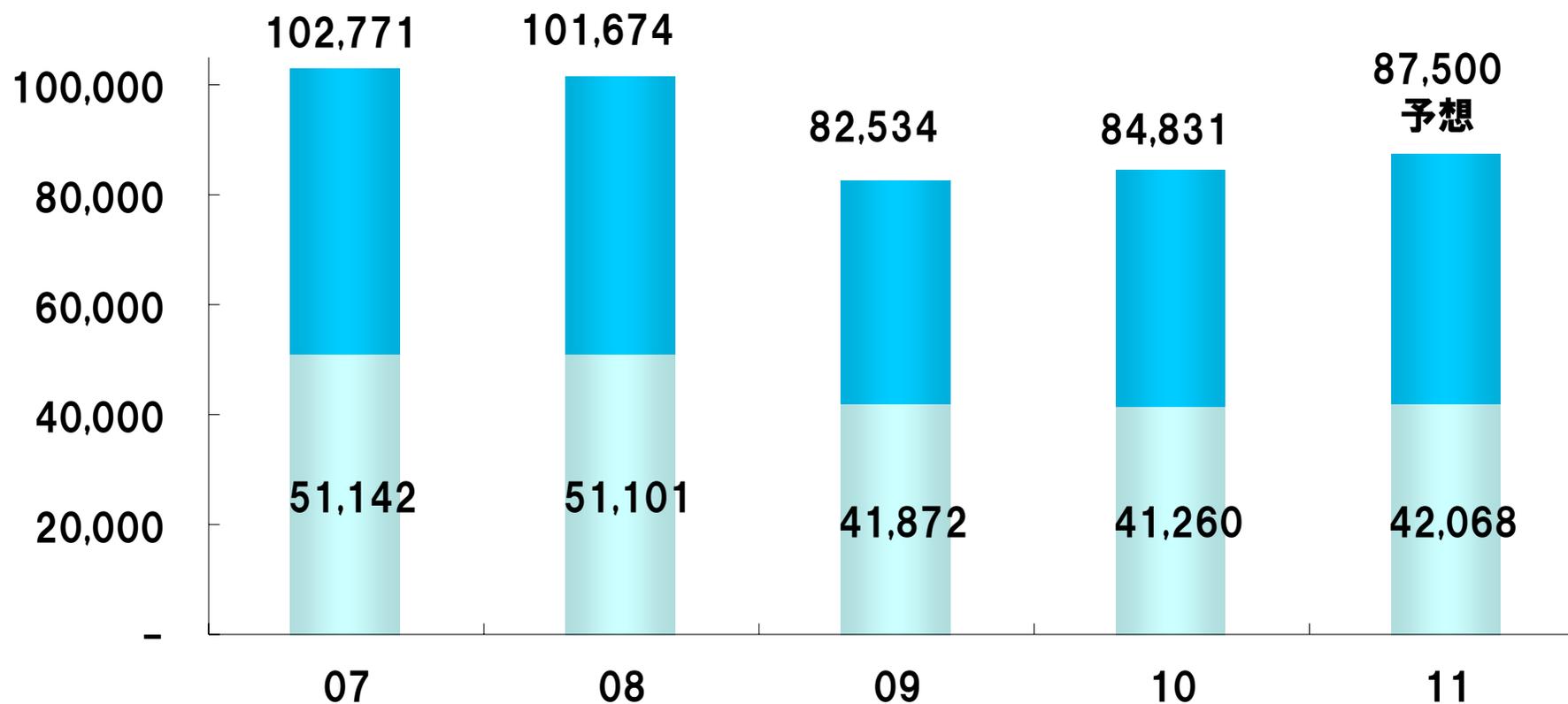
	07年	08年	09年	10年	11年2Q
売上高 (百万円)	102,771	101,674	82,534	84,831	42,068
営業利益 (百万円)	6,709	6,984	2,799	4,617	2,566
経常利益 (百万円)	7,004	6,945	2,451	4,733	2,625
当期純利益 (百万円)	4,380	4,035	797	2,148	1,280
1株当たり 当期純利益 (円)	53.08	49.22	9.90	29.81	16.34

連結業績概要

(百万円)

売上高

通期
2Q

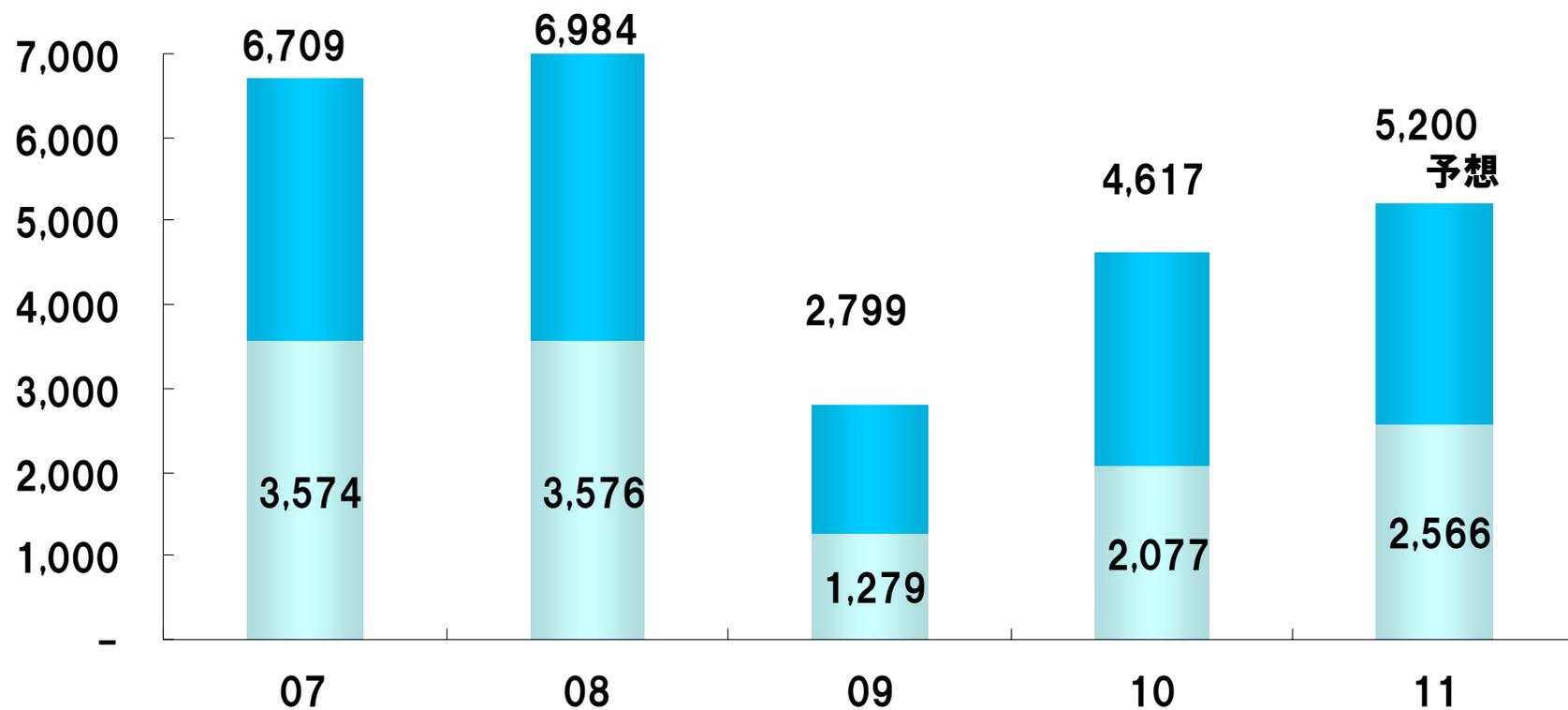


連結業績概要

営業利益

通期
2Q

(百万円)

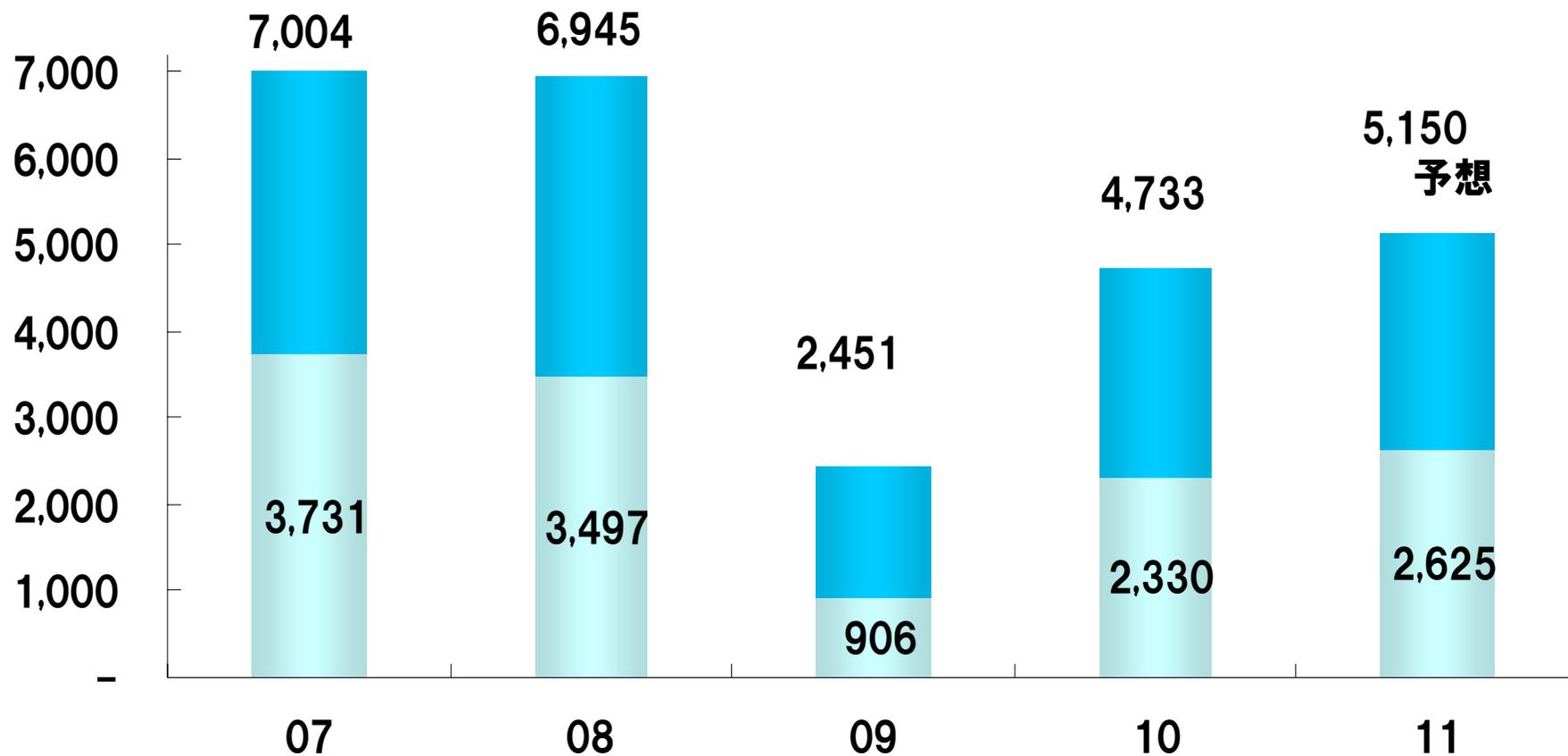


連結業績概要

経常利益

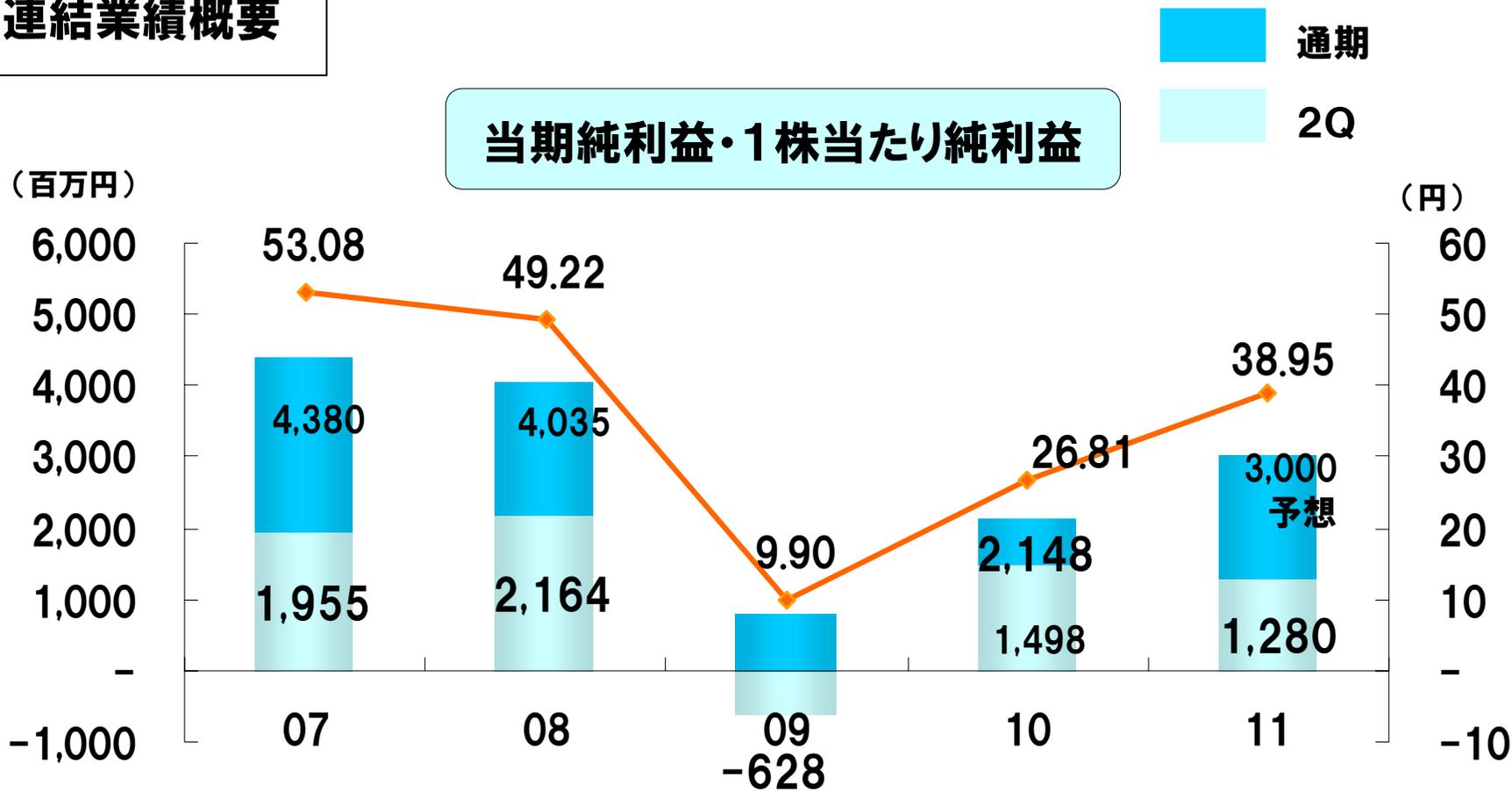
通期
2Q

(百万円)



連結業績概要

当期純利益・1株当たり純利益



連結業績概要

		10年2Q	11年2Q	増 減	
				金 額	%
売上高	(百万円)	41,260	42,068	808	+1.95
営業利益	(百万円)	2,077	2,566	489	+23.54
営業外損益	(百万円)	253	60	-193	-76.28
経常利益	(百万円)	2,330	2,625	+295	+12.66
特別損益	(百万円)	477	-296	-773	-162.05
法人税等	(百万円)	1,265	1,015	-250	-19.76
少数株主損益	(百万円)	-43	-32	-11	-
当期純利益	(百万円)	1,498	1,280	-218	-14.55
1株当たり 当期純利益	(円)	18.63	16.34	-2.29	-12.29

◆売上高

コミュニティサービス事業におけるビデオレンタル事業や屋内型会員制遊戯施設、介護事業等の拡大により売上高は全体で8億円余の増収となる。

◆営業利益

衣料繊維事業において、昨年度に実施した国内外の工場再編が寄与し全体で5億円弱の増益となる。

◆当期純利益

前年度は固定資産の売却があった一方で、今期は資産除去債務会計基準適用の影響で2億円余の減益となる。

連結業績概要

	07年	08年	09年	10年	11年2Q
総資産 (百万円)	137,969	126,642	116,962	113,021	114,464
純資産 (百万円)	77,825	71,538	69,875	69,998	68,025
1株当たり 純資産 (円)	926.56	870.77	854.35	863.44	872.84
自己資本 比率 (%)	55.4	55.7	58.9	60.3	58.7
ROE 自己資本利益率 (%)	5.7	5.5	1.1	3.1	4.4

9 ※ 11年2Qの「ROE」については、通期業績予想の当期純利益を分子として年間予想値を算出しております。

連結業績概要

	10年	11年2Q	増減
総資産 (百万円)	113,021	114,464	+1,443
純資産 (百万円)	68,998	68,025	-973
1株当たり純資産 (円)	863.44	872.84	+9.4

◆総資産

現預金、棚卸し資産等の増加により、14億円強の増加。

◆純資産

自己株取得及び、その他有価証券評価差額金の減により10億円弱の減少

キャッシュ・フロー

	07年	08年	09年	10年	11年2Q
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,252	7,278	10,435	9,194	1,744
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	-81	-3,735	-5,693	-1,098	-1,766
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	-4,340	-3,935	-3,447	-6,936	269
現金及び現金 同等物期末残高 (百万円)	11,112	10,698	11,916	13,059	13,406

キャッシュ・フロー

	10年2Q (百万円)	11年2Q (百万円)
営業活動による キャッシュ・フロー	3,619	1,744
投資活動による キャッシュ・フロー	747	-1,766
財務活動による キャッシュ・フロー	-151	269
現金及び現金 同等物期末残高	16,147	13,406

◆営業活動によるキャッシュ・フロー

純利益の増加などにより、営業活動による収入は増加。

◆投資活動によるキャッシュ・フロー

設備投資と有価証券の運用などにより17億円強の赤字。

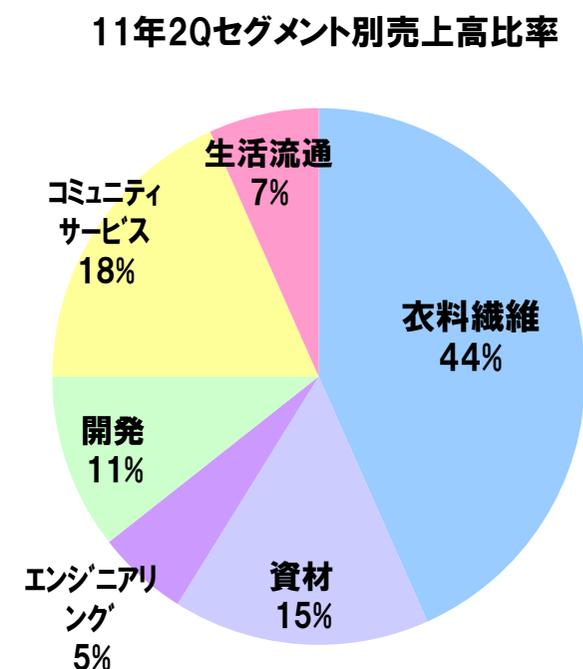
◆財務活動によるキャッシュ・フロー

短期借入の増加などにより2億円強の黒字。

セグメント別業績の概要

セグメント別売上高

セグメント	10年2Q (百万円)	11年2Q (百万円)	増 減	
			金 額	%
衣料繊維	18,719	18,839	+120	+0.64
資材	7,557	6,716	-841	-11.12
エンジニアリング	2,491	2,380	-111	-4.45
開発	4,832	4,618	-214	-4.42
コミュニティサービス	6,084	8,017	+1,933	+31.77
生活流通	2,520	2,838	+318	+12.61
消却又は全社	-943	-1,334	-391	-
売上高計	41,260	42,068	+808	+1.95

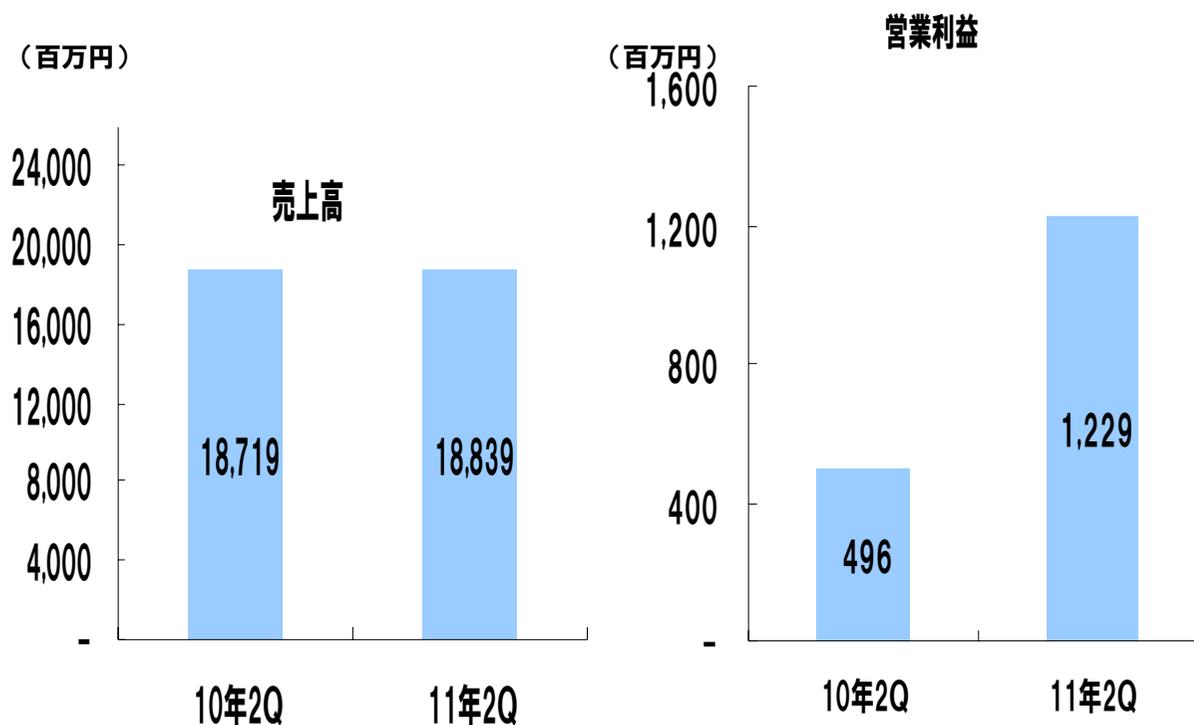


セグメント別業績の概要**セグメント別営業利益**

セグメント	10年2Q (百万円)	11年2Q (百万円)	増 減	
			金 額	%
衣料繊維	496	1,229	+733	+147.78
資材	249	244	-5	-2.0
エンジニアリング	-86	-99	-13	-
開発	1,789	1,675	-114	-6.37
コミュニティサービス	169	188	+19	+11.24
生活流通	110	50	-60	-54.54
消却又は全社	-649	-722	-73	-
営業利益計	2,077	2,566	+489	+23.54

衣料繊維事業の概要

<事業内容>毛糸・毛織物・縫製品等の繊維製品の製造・販売



◆売上高

売糸は販売数量が減少しましたが、原毛価格の高騰により増収。

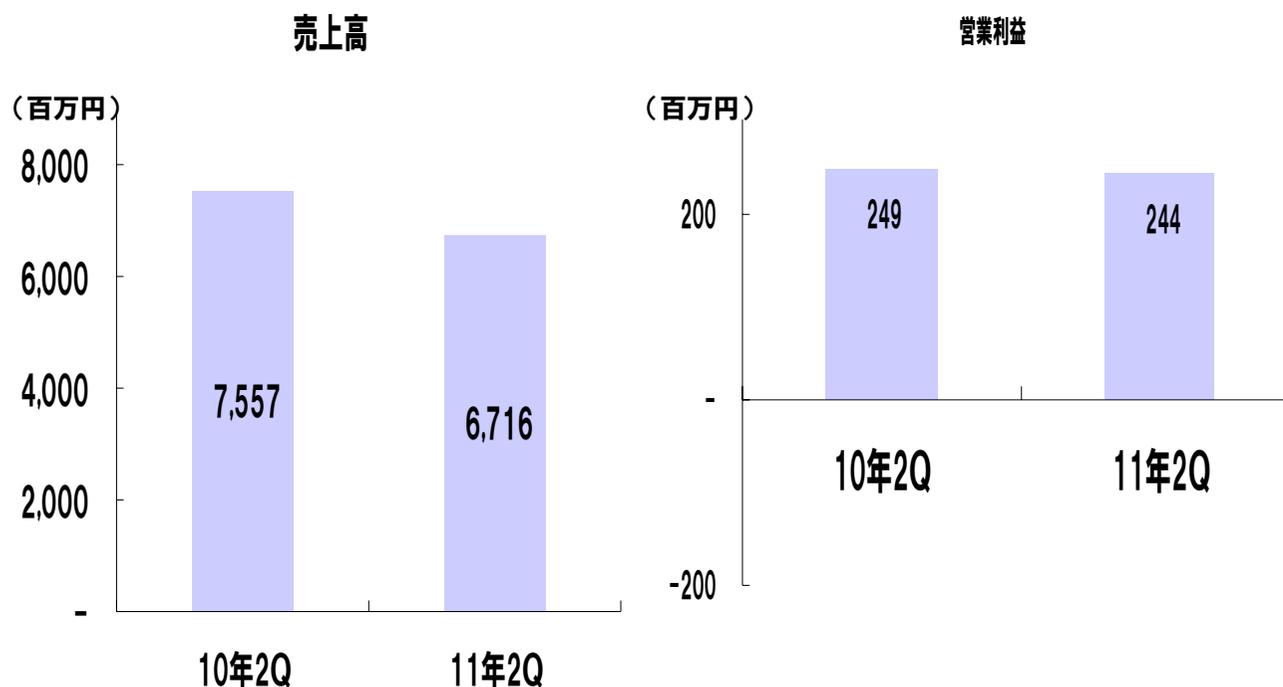
学校・官公庁向け制服素材は、流通段階における在庫調整の緩和により販売数量が伸び増収。

一般企業向け制服素材・ファッション素材も大口物件の受注により増収。

海外向事業は米国・欧州・アジア各地域への積極的なワークを行った結果増収。

資材事業の概要

＜事業内容＞カーペット・不織布・フェルト等の繊維製品、
テニス及びバドミントンガット等・釣糸・産業資材等の製造・販売



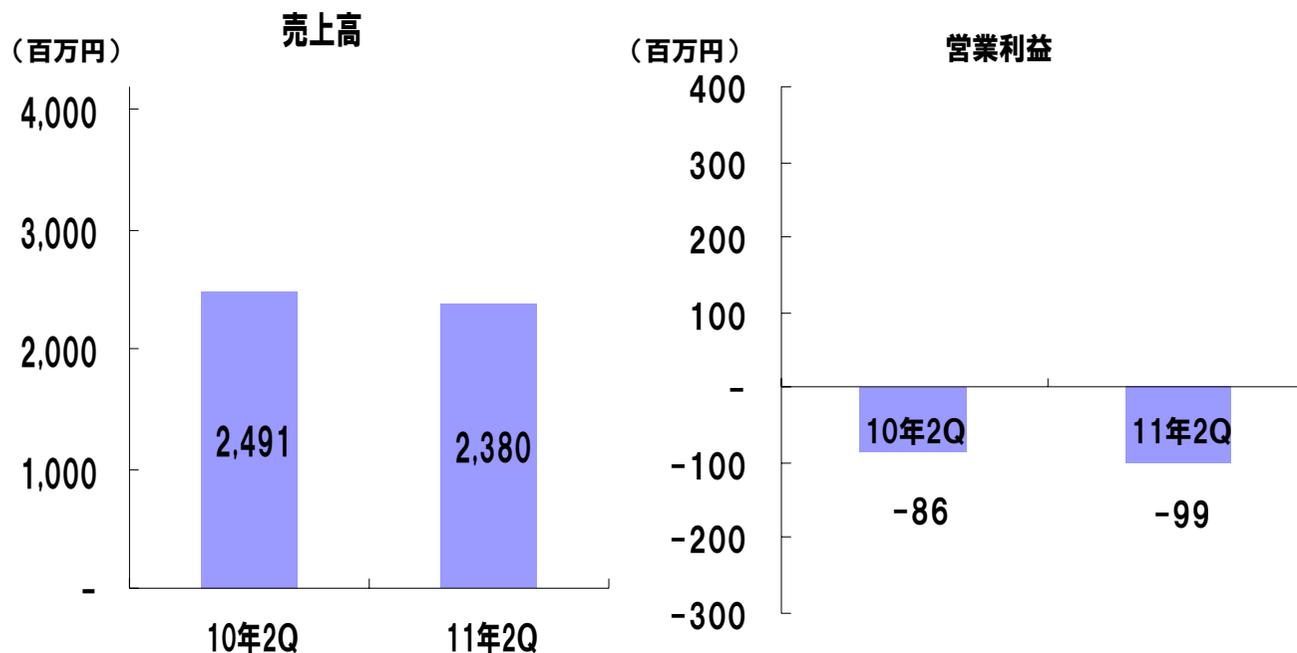
◆売上高

産業用資材は楽器向けフェルトが健闘したものの、自動車産業向け製品が震災の影響により減収。

生活用資材のうち、ラケットスポーツ用品は需要低迷と競争激化により減収。釣糸も震災の影響で大幅減収。

エンジニアリング事業の概要

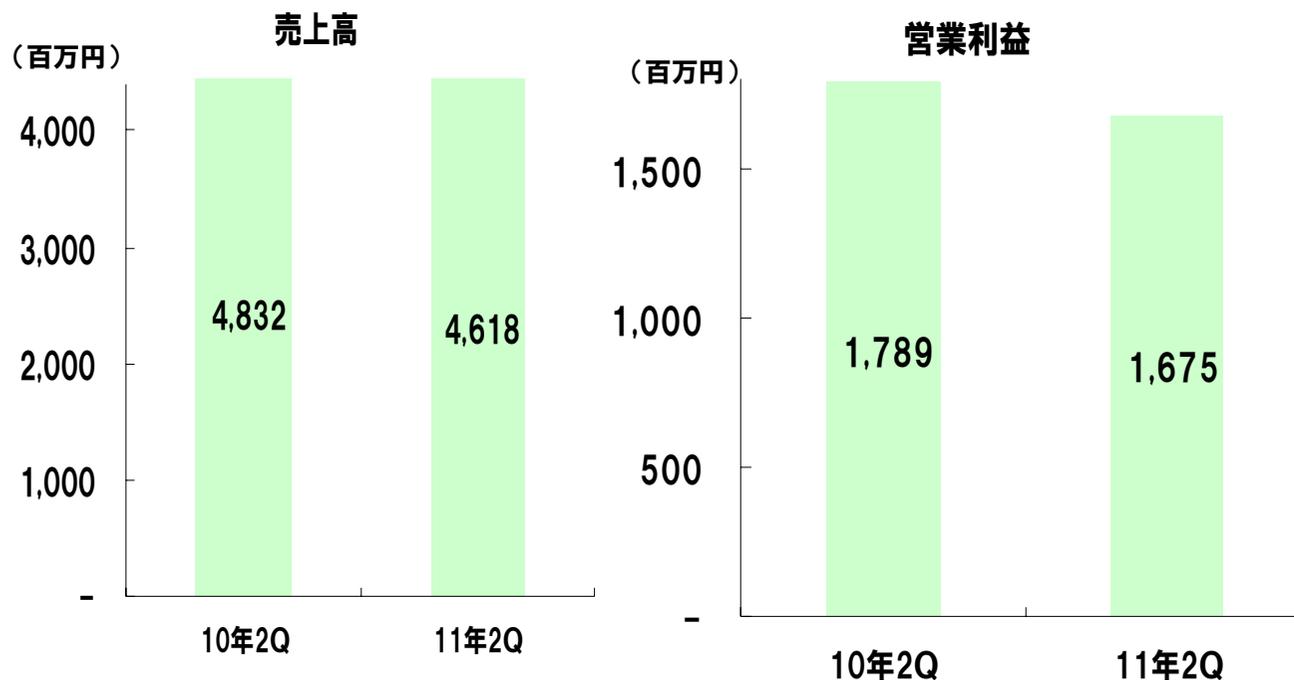
＜事業内容＞産業用機械の製造・販売、
電子・電気計測器及び制御装置の製造・販売



◆売上高
リチウムイオン電池、自動車用発電機、電動式パワーステアリングなどの製造ライン関連機器や画像処理は好調に推移し増収となりましたが、半導体チップ製造ライン関連機器や汎用電源・計測器は減収。

開発事業の概要

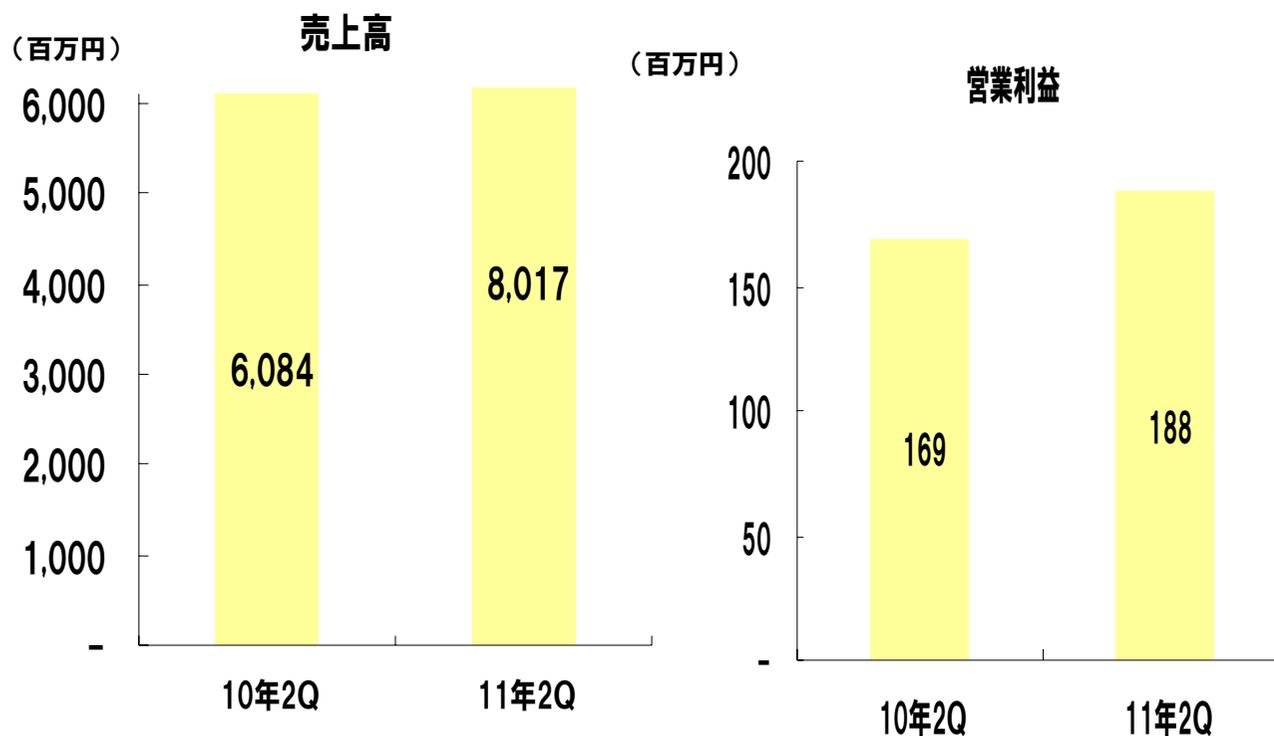
**<事業内容>ショッピングセンターの賃貸事業、
不動産の建設・販売・賃貸**



◆売上高
 商業施設運営事業は「ニッケコルトンプラザ」が昨年3D映画ヒットの反動と計画停電、消費低迷等により減収。
 不動産事業は経済環境が厳しく既存テナントの撤退及び賃料引下げの影響を受けたが、大阪府内の賃貸マンション収益が寄与し増収。

コミュニティサービス事業の概要

**<事業内容>ゴルフ・テニス・乗馬等のスポーツ事業、
携帯電話の販売、介護サービス事業、菓子小売**



◆売上高

スポーツ事業は開発事業部から(株)ニッケコルトンサービスの移管を受け増収となったが、既存店ベースでは消費低迷や新規会員の伸び悩みにより減収。

介護事業はデイサービス・小規模居宅介護事業ともに利用者が順調に伸び増収。

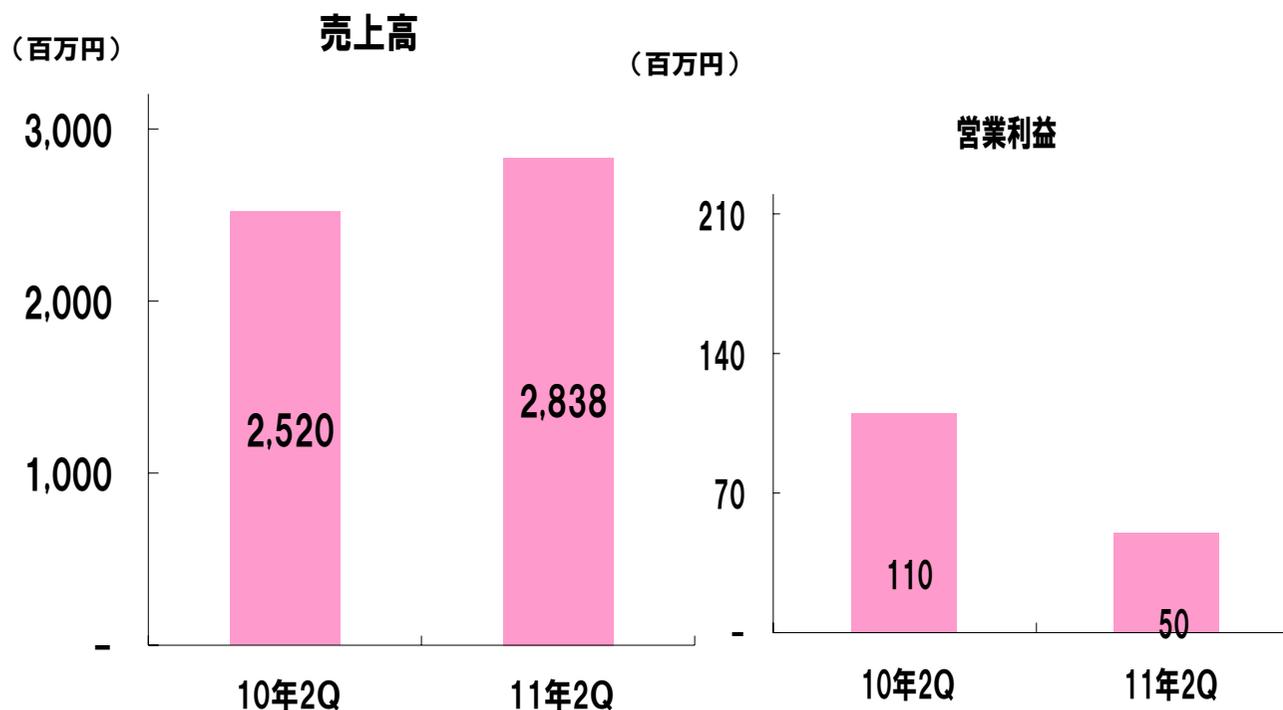
アミューズメント事業は個人消費の冷え込みが厳しく減収。

携帯電話販売事業はスマートフォン市場が急速に拡大し増収。

新規事業は昨年から展開しているビデオレンタル事業が増収。

生活流通事業の概要

＜事業内容＞毛布・寝装品・手編毛糸・馬具・乗馬・ペット用品・
ペットフードの製造・販売



◆売上高

寝装品は百貨店・専門店向けは苦戦しているものの、震災以後業務用災害毛布の出荷が寄与し増収。

馬具・乗馬用品は単価の低迷が続き減収。貿易代行業務は新規取引が貢献し増収。

ペット用品は他社との競争が激しく減収。ペットフードは価格競争が止まらず減収。

新規事業のコンテナ事業と、荷役・物流作業を行うニッケ物流を今期から連結したことにより増収

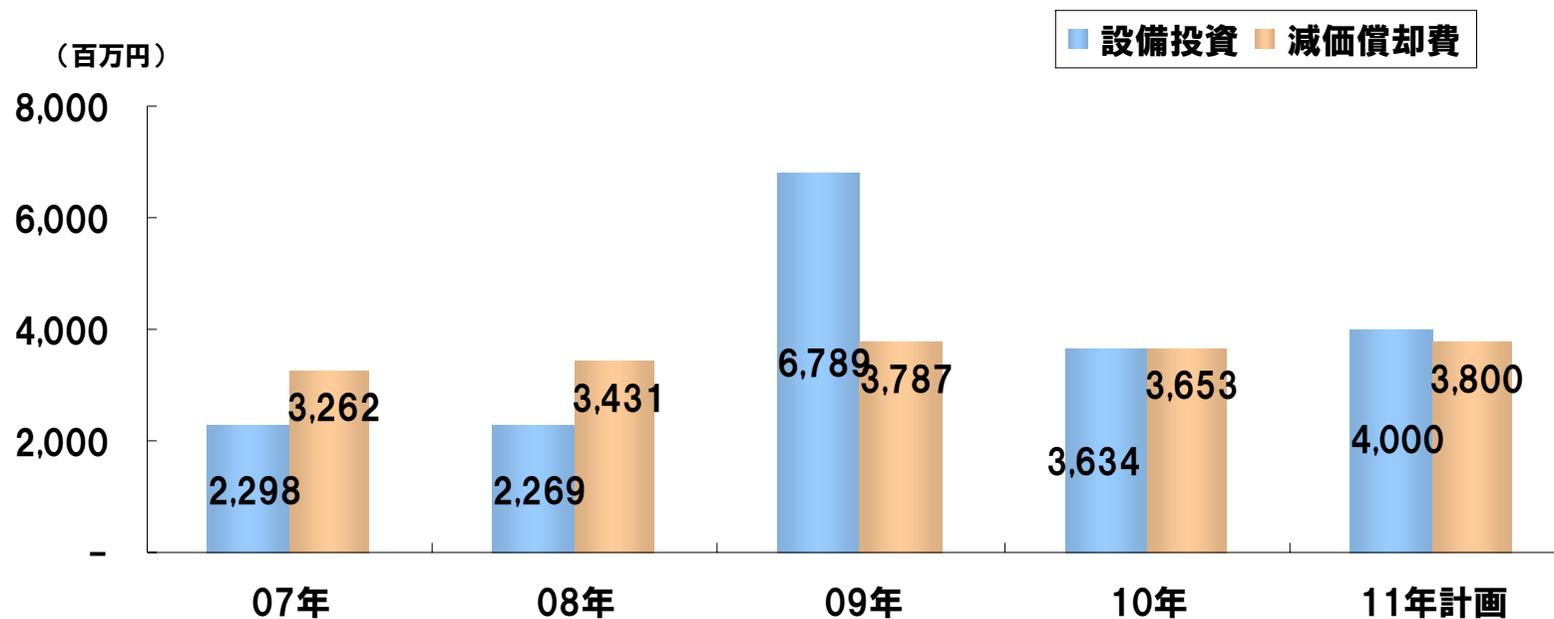
業績予想

	09年	10年	11年予想	増減
売上高 (百万円)	82,534	84,831	87,500	+2,669
営業利益 (百万円)	2,799	4,617	5,200	+583
経常利益 (百万円)	2,451	4,733	5,150	+417
当期純利益 (百万円)	797	2,148	3,000	+852
1株当たり 当期純利益 (円)	9.90	26.81	38.95	+11.31
配当 (円/株)	18	18	18	-

セグメント別業績予想

セグメント	11年予想	
	売上高(百万円)	営業利益(百万円)
衣料繊維	39,300	2,450
資材	14,000	500
エンジニアリング	5,900	30
開発	9,600	3,000
コミュニティサービス	16,200	400
生活流通	5,400	-20
消却又は全社	-2,900	-1,160
計	87,500	5,200

設備投資・減価償却費



対処すべき課題

当社グループは「ニッケグループ中長期ビジョン(NN120ビジョン)」の実現に向けて、経営の基本戦略が共通する6つの事業領域・全方位で、以下の施策を実行していく。

<衣料繊維事業>

強みである原料から織物までの一貫生産による品質と技術を更に強化し、高品質・高付加価値・高機能商品の提供と積極的な海外展開を推進します。

<資材事業>

裾野の広い産業資材分野での成長を目指すとともに、差別化商品の提供と積極的な海外展開・M&A戦略により、事業規模の拡大を目指します。

<エンジニアリング事業>

設計能力と商品開発の強化、積極的なM&Aを推進し、事業規模拡大と安定化を目指します。

対処すべき課題

<開発事業>

グループ全体の資産の有効活用と価値向上を追求し、長期的な視点での「街づくり」開発を推進することにより、資産価値の向上を図ります。

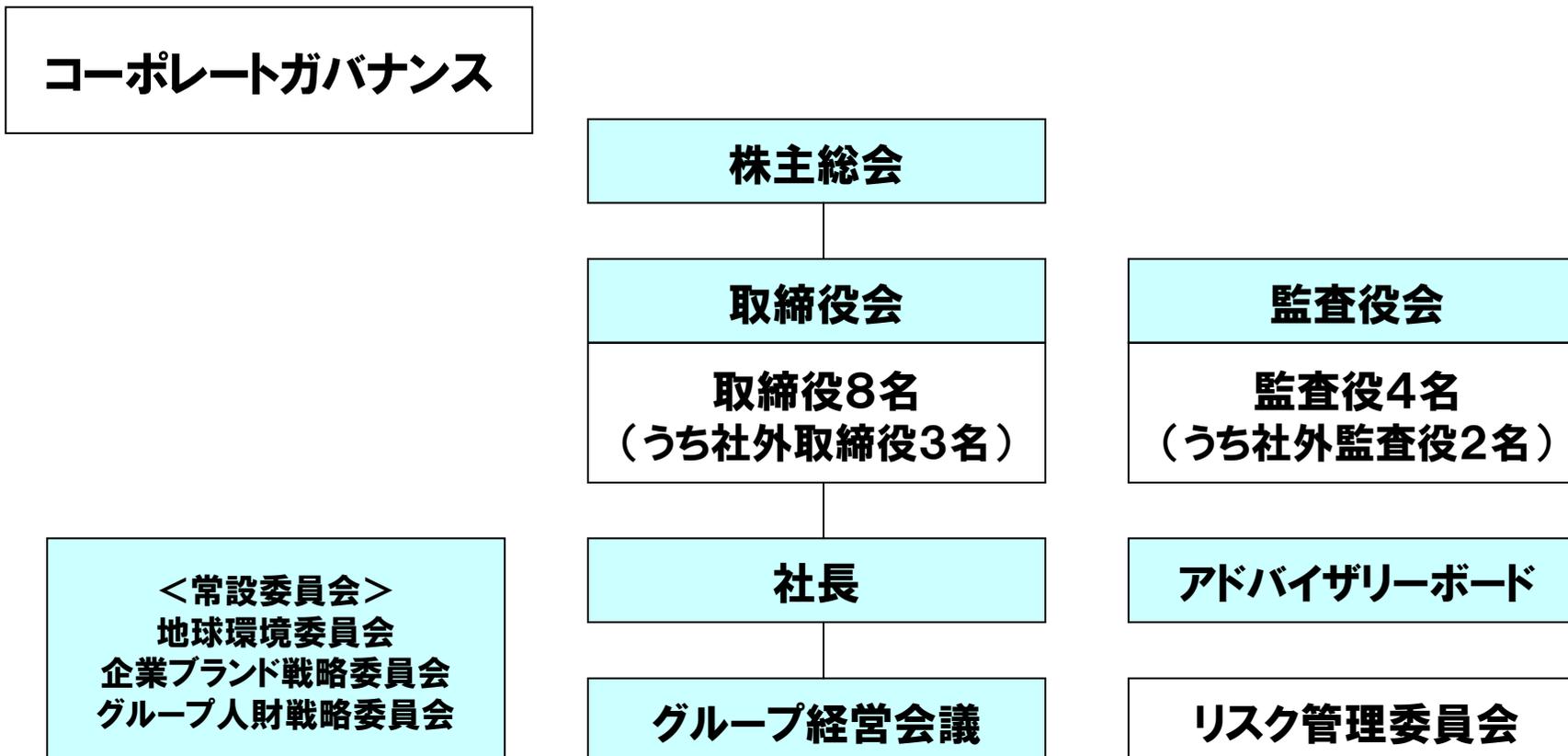
<コミュニティサービス事業>

“コミュニティ＝地域社会”に貢献する独自の「ニッケのサービス」を創出・提供することにより、本格的なサービス事業の展開を目指します。

<生活流通事業>

戦略的ブランディングと生活文化を創造する商品開発によりその価値を高め、規模と収益の拡大を目指します。

激変する環境において、グローバル化に対応しながらニッケグループ独自の強みを発揮すべく、活力あるグループ経営機能の強化を推進し、上記施策の実現に向けて全力を挙げる。6事業領域・全方位で、限定せず、内向きにならず、外に向かうという方針のもと、生産性向上を最優先課題とし、顧客志向の仕組みづくり・新しい事業価値の創出・業務の効率化などに取り組んでいく。



2001年 取締役会議長を代表権のない取締役に

2005年 役員退職慰労金制度を廃止

2003年 取締役の任期を1年に短縮

2006年 執行役員制度を導入

2004年 アドバイザリーボードを設置

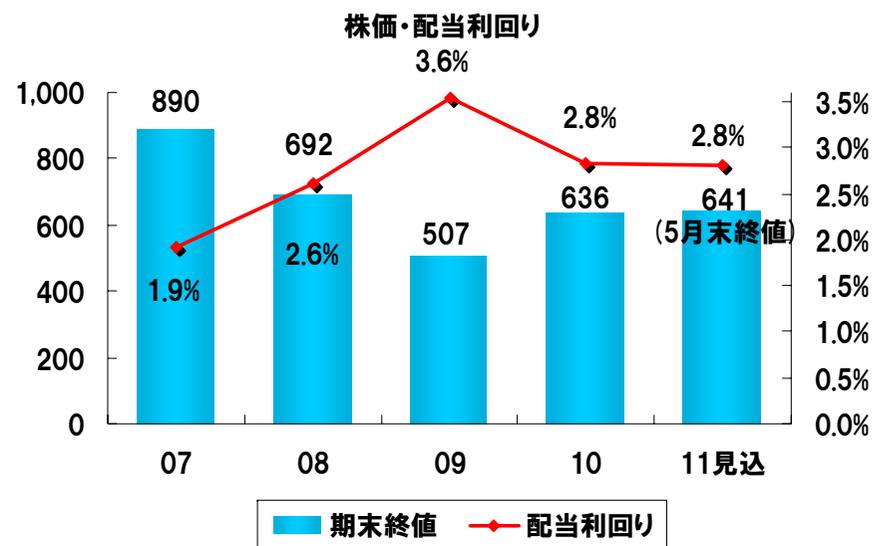
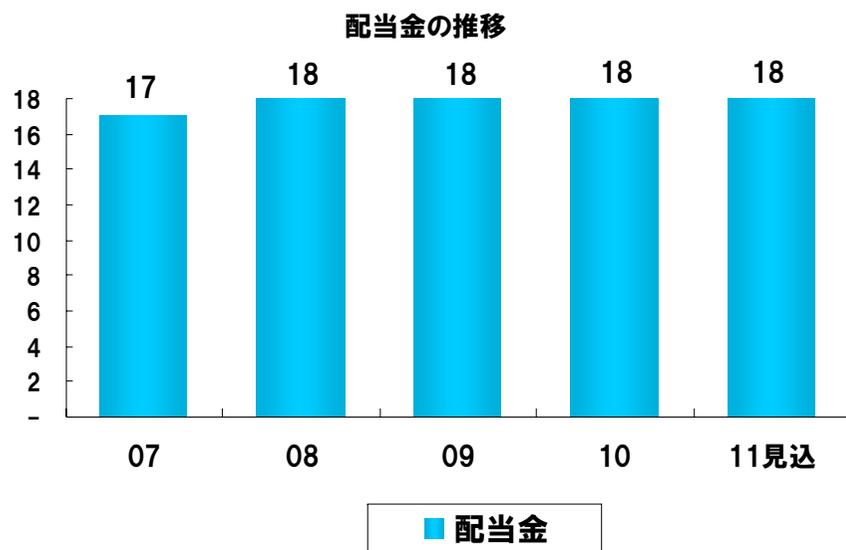
2007年 社外取締役2名に増員

2009年 社外取締役3名に増員

株主還元方針

利益水準に応じて持続的に配当水準を引き上げていく。

今期については、引き続き年間1株当たり18円を目標とする。



(参考) 羊毛相場・為替相場の推移

